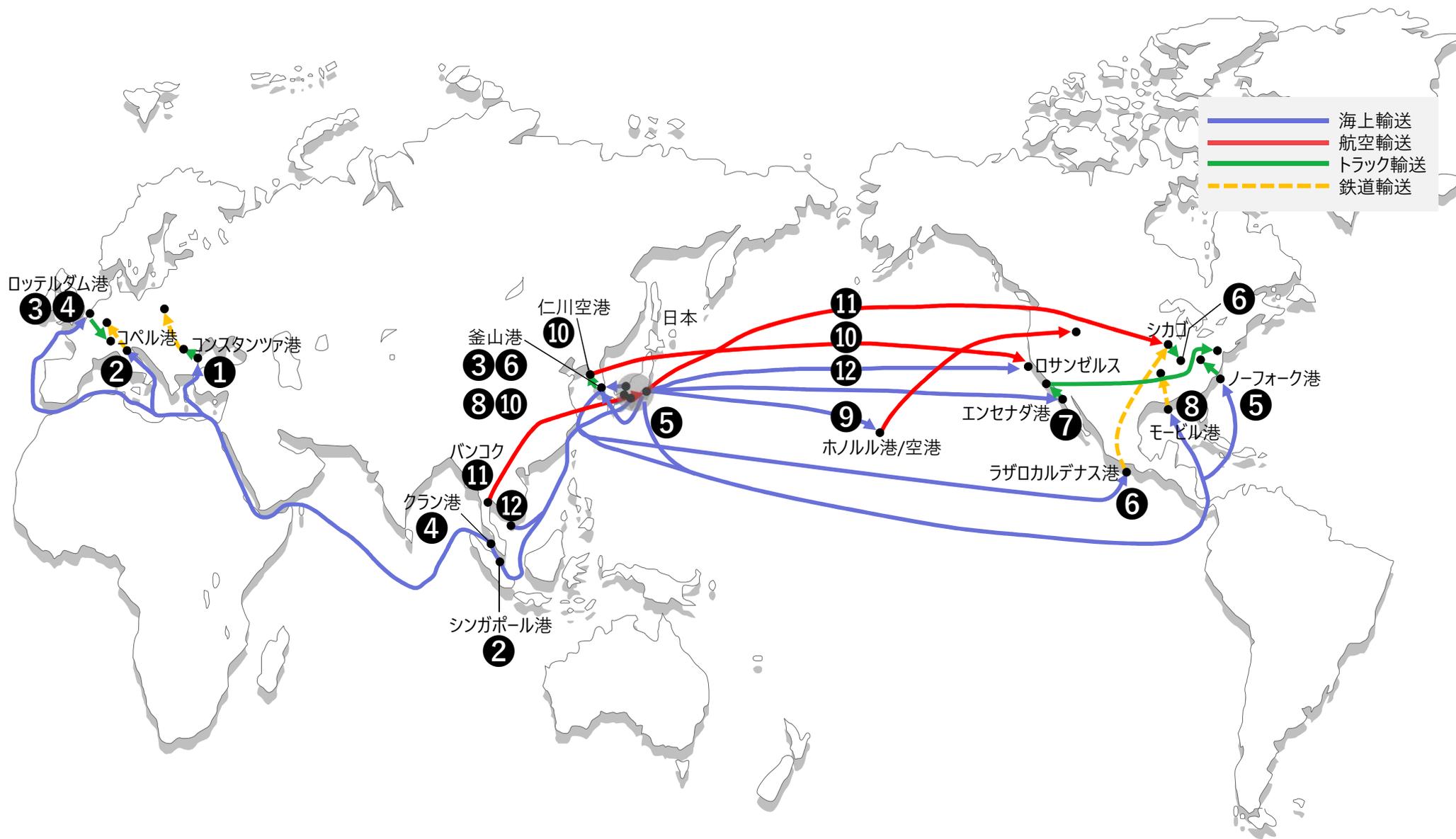


【別添】令和4年度補正予算「国際物流の多元化・強靱化に向けた実証輸送」選定結果 国土交通省

方面	分類	輸送手段・ルート	背景・目的	貨物	主な参加事業者
欧州	Sea&Rail型	① 横浜港－(海上)→ルーマニア・コンスタンツァ港－(トラック)→ルーマニア主要貨物駅－(鉄道)→チェコ又はポーランド(調整中)	ロシアのウクライナ侵攻や欧州主要港の混雑等に対するBCPとして、ルーマニアのコンスタンツァ港を荷揚地として欧州の鉄道網を利用する輸送ルートの可能性を検証し、将来的にはウクライナの復興支援も見据えつつ、欧州への安定的な物流網の確立を目指す。	住宅資材	株式会社東洋トランス
		② 名古屋港－(海上)→シンガポール港－(海上)→スロベニア・コペル港－(鉄道)→ドイツ・デュイスブルク	海上コンテナ輸送の混乱や欧州主要港の混雑等に対するBCPとして、南欧のコペル港を荷揚地として鉄道を利用する輸送ルートの有効性を検証し、欧州への安定的な物流網の確立を目指す。	アパレル資材	YKK株式会社
	海上シフト型	③ 金沢港－(海上)→韓国・釜山港－(海上)→オランダ・ロッテルダム港又はドイツ・ハンブルク港－(トラック)→ドイツ・フランクフルト	近年の欧州向け航空運賃の高騰を受け、航空輸送の代替手段として、金沢港を活用した海上コンテナ輸送(定温管理)の可能性を検証し、北陸から欧州への安価で高質な輸送ルートの確立と食料品等の輸出拡大を目指す。	食料品、 工芸品等	エージェクス合同会社 株式会社金沢港運
	東南アジア 中継型	④ 東京港－(海上)→マレーシア・クラン港(保税蔵置)－(海上)→オランダ・ロッテルダム港	海上コンテナ輸送の混乱等に対するBCPとして、日本と欧州の経路上に位置するマレーシアのクラン港を中継拠点とした輸送・保管サービスの有効性を検証し、欧州への安定的な物流網の確立を目指す。	化成品	山九株式会社
北米	北米東岸 ルート	⑤ 横浜港－(海上)→米国・ノーフォーク港－(トラック)→米国・ポカ	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、北米東岸のノーフォーク港を活用した輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	自動車部 品	ダイヤゼブラ電機株式 会社
	メキシコ西岸 ルート	⑥ 東京港－(海上)→韓国・釜山港－(海上)→メキシコ・ラザロカルデナス港－(鉄道)→米国・シカゴ(トラック)→米国・メアリーズビル	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、メキシコ西岸のラザロカルデナス港を活用した輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	自動車部 品	本田技研工業株式会 社
		⑦ 横浜港－(海上)→メキシコ・エンセナダ港－(トラック)→メキシコ・ティファナー(トラック)→米国・ゴーシェン	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、メキシコ西岸のエンセナダ港を活用した輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	事務用品 材料	三菱倉庫株式会 社 コニカミノルタ株式 会社
	メキシコ湾岸 ルート	⑧ 名古屋港－(海上)→韓国・釜山港－(海上)→米国・モービル港－(鉄道)→米国・メンフィス	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、メキシコ湾岸のモービル港を活用した輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	精密機器	ブラザーインターナシ ョナル株式会 社
	Sea&Air型	⑨ 京浜港－(海上)→米国・ホノルル港－(トラック)→米国・ホノルル空港－(航空)→米国空港(調整中)	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、ハワイを中継地として海上輸送と航空輸送を組み合わせた輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	調整中	郵船ロジスティクス株 式会社
		⑩ 東京港－(海上)→韓国・釜山港－(トラック)→韓国・仁川空港－(航空)→米国・ロサンゼルス空港	北米主要港の混雑等に対するBCPとして、韓国を中継地として海上輸送と航空輸送を組み合わせた輸送ルートの有効性を検証し、米国への安定的な物流網の確立を目指す。	玩具等	JP トールロジスティ クス株式 会社
	日本中継型	⑪ タイ・バンコク(航空)→東京(成田空港/羽田空港)(再混載)－(航空)→米国・シカゴ空港	アジア発北米向け航空輸送の運賃高騰、スペース不足等に対するBCPとして、日本を中継地としたトランジット輸送の可能性を検証し、アジアから米国への安定的な物流網の構築を目指す。	混載	日本通運株式会 社
		⑫ アジア(調整中)－(海上)→東京港(再混載)－(海上)→米国・ロサンゼルス港	アジア発北米向け海上輸送の運賃高騰、スペース不足等に対するBCPとして、日本を中継地としたトランシップ輸送の可能性を検証し、アジアから米国への安定的な物流網の構築を目指す。	混載	セイノーロジックス株 式会社

【イメージ】国際物流の多元化・強靱化に向けた実証輸送の輸送手段・ルート



2020年

◆ 国際海上コンテナ輸送の需給逼迫(2020年後半～)

- ・新規コンテナ生産が低迷したことに加え、2020年7月以降、巣ごもり需要の拡大に伴いアジア発北米向け等のコンテナ荷動き量が急増した結果、北米西岸(ロサンゼルス港・ロングビーチ港)を中心とする港湾混雑等により、コンテナ船の慢性的な運航遅延が発生
- ・世界的に海上コンテナ輸送スペースが不足し、運賃の高騰が発生
- ・北米西岸労使交渉の影響を懸念し、輸送ルートを変更したこと等により、北米東岸等においても港湾混雑が発生

2021年

◆ 上海浦東空港における貨物取扱い遅延(2021年8月～11月)

- ・中国当局の指示により上海浦東空港における防疫措置が大幅に強化
- ・人員体制の逼迫により貨物の搭降載作業効率が著しく低下し、貨物の滞留や新規受付停止、貨物便のキャンセル等が発生

◆ スエズ運河における大型コンテナ船の座礁事故(2021年3月)

- ・スエズ運河の通航が6日間にわたり不通となり、喜望峰周りの代替航路への変更を余儀なくされた結果、運航時間や消費燃料が大幅に増加

◆ カナダ西部における集中豪雨(2021年11月)

- ・ブリティッシュコロンビア州における洪水や土砂崩れの影響で、約1ヶ月にわたりバンクーバー港発着の鉄道貨物輸送に支障

2022年

◆ 上海のロックダウン(2022年3月末～5月末)

- ・市内での感染拡大を受けた外出禁止措置等により、工場の稼働停止やサプライチェーンの混乱など、経済活動にも大きな影響
- ・トラックの市外への通行が制限されたことで貨物の集配に影響が出たほか、上海港や上海浦東空港の貨物取扱能力も大幅に低下
- ・日系企業も、原材料の調達や生産活動に支障を生じ、一部メーカーは操業を停止

◆ ロシアによるウクライナ侵攻(2022年2月～)

- ・欧州向けの航空輸送について、ロシア上空を通過しない迂回ルートでの運航に伴い、運航時間や運航経費が増加
- ・ロシア・ウクライナ向けの海上輸送について、貨物の引受けを原則停止
- ・シベリア鉄道を利用したロシア・欧州向け輸送について、事実上の利用停止
- ・制裁措置等により原油価格が高騰し、物流コストも上昇

2023年

◆ 欧州港湾におけるストライキ(2022年6月～)

- ・ハンブルク港、リバプール港等において、港湾労働者が賃金の引き上げを求めるストライキが頻発
- ・港湾混雑によりヤードの稼働率及び処理能力の低下、貨物の滞留等が発生